

潮見地区タウンミーティング(要約)

テーマ：潮見地区のまちづくりについて

平成27年11月25日(水曜日)

【市長】 皆さま、こんばんは。今日は水曜日の夜でございます。平日の夜ですので、皆さま何かとお忙しかったのではないかと思いますけれども、潮見地区のまちづくり協議会の会長さんほか役員の皆さまのお力添えをいただきまして、このタウンミーティングが開催できるようになりました。本当にありがとうございます。また、大勢の方に集まっていただきまして、本当にありがとうございます。このタウンミーティングですが、私が市長に就任をさせていただいてから、始めさせていただいております。松山市は41地区に分かれますけれども、その地区ごとに魅力があつてまたは逆に課題があると思います。その魅力を伸ばして課題は減らしていくまちづくりをしましょうと。そしてみんなでまちづくりをしていきませんかということで、このタウンミーティングを始めておりますけれども、どっちが楽かという話をすると、皆さんが市役所にお越しになるのを待っているほうが楽です。でも、果たしてそれでいいんでしょうか。我々から各地区に出向いて行って、皆さんのお声を聞かせてもらいましょうということで、タウンミーティングを始めました。市長の任期は1期4年48カ月です。松山市内は41地区に分かれますので1カ月に1回くらいのペースでやろうかなと思っていたんですけれども、おかげさまで好評になりまして、1期4年の間に地区2回りをさせていただきました。そして2期目に入らせていただいて、地区別のタウンミーティングは継続をします。これまでどおりにやっていくとともに、職業別のタウンミーティング、また、世代別のタウンミーティングを重ねているところです。大学生に集まっていたのタウンミーティングですか、また、子育て世代の方々に集まっていたのタウンミーティングを重ねております。また、職業別のタウンミーティングとして農業分野の方々に集まっていたのタウンミーティングも重ねておりまして、今日は地区別のタウンミーティングで潮見にやってきたということになります。今日で88回目のタウンミーティングになります。この松山市版のタウンミーティングですが、皆さんのお声にできるだけお答えをして帰りますけれども、中には国と関係する案件、県と関係をする案件、また財政的な検討をしなければいけないもの、そういうものはいい加減な返事をして帰るわけにはまいりませんので、いったん持ち帰らせていただくものもございます。いったん持ち帰らせていただいて、市役所内で十分検討

させていただいて必ず皆さんのところに返事をお返しする、聞きっぱなしにはしない、やりっぱなしにはしないタウンミーティングを重ねております。今日は90分間意見交換をさせていただきますが、とにかく未来の潮見地区のまちづくりに向けていい話し合いができればと思いますので、今日はどうぞよろしくお願ひいたします。

【司会】 それでは、テーマ趣旨について市長からご説明させていただきます。

【市長】 今日のタウンミーティングについてご説明をさせていただきます。今日のテーマですが、まちづくり協議会さんともご相談をさせていただく中で、潮見地区のまちづくり「若い世代の地域活動への参加と世代間交流について」をテーマとさせていただきました。近頃は少子高齢化や核家族化とよく言われますけれども、またライフスタイル、皆さんの生活スタイルも多様化をしているということで、ご近所さんのつながりが薄くなっていると言われます。つながりが薄くなるとどういうことが起こるかという、治安面がちょっと不安になるな、防災面が不安になるなということが言われます。地域の文化や伝統を継承していくことが難しくなると言われております。潮見地区はまちづくり協議会が一昨年の3月に市内41地区中11番目に結成をされております。例えば潮見ふるさと音頭であったり、ふれあい農園など熱心に取り組んでくださっていますけれども、その先進的な活動は生活安全、教育、福祉、環境など多岐にわたってさまざまな組織の協力のもと実施されていると伺ってしまして、大変心強く感じています。やっぱりつながりは大切です。若い世代の方に地域活動に積極的に参加をさせていただいて、さまざまな世代の方の交流を深めることができれば、まちづくりの輪がまさに広がるんじゃないかなと思います。ここで、これまでのタウンミーティングでいただいたご意見のうち2件についてご報告をさせていただきます。平成23年12月の1巡目のタウンミーティングで潮見山の崖の通学路になっているところに対策をしてほしいというご意見をいただきました。これは地元の寺井議員さんにもご協力をいただきまして、改善することができたと言っていますけれども、いろいろと対応策を協議して平成24年の12月から壁(擁壁)と待避所を設置する工事を開始しまして、一昨年の6月に写真のように完了しました。もう1件、2巡目のタウンミーティングは一昨年の7月に開催をしましたが、潮見小学校のグラウンドが狭くて、運動会ときは側溝に片足をを入れて移動しているんですよという話をいただきました。これはいかんなど、これにつきましてもタウンミーティング後すぐ、翌月に写真のようにふた、

グレーチングの設置をさせていただきました。どうせ言っても変わらんやろ、ではなくて、やっぱり言うていただくことが大事ではないかなと思いますし、また、できないことは、経緯があって難しいんですということもきちんとご説明ができたらと思います。話せば理解、話さなければ誤解だと思っていますので、遠慮なく言うていただきたいと思います。また90分間肩ひじ張っているとさすがに疲れてしまいますから、地元の潮見の方ばかりですので、あまり緊張なさらずに色々な声を寄せていただけたらと思います。最後に、行政だけではやれることに限りがありますので、行政ができること、皆さんができること、皆さんと私たちが力を合わせてできることがあると思いますので、皆さんと一緒に協働を進めていければと思いますので、今日はどうぞよろしくお願いたします。

【男性】 潮見公民館の館長をしております。まず、松山市長さんをお迎えしてこのような意見交換会を持つ機会をつくっていただいた市のご当局にお礼を申し上げたいと思います。ありがとうございます。若い世代の地域活動への参加と世代間交流についてということですので、20代30代の折にどのような活動をしてきたのかという私の体験を申し上げたいと思います。地域活動2つございます。町内会活動から入りまして、その後公民館、青年学級活動へと参加をいたしました。最初に町内会長からお誘いがあって「運動会へ出て走ってくれ」と言われ、得意なことだったので、ずっと参加することができました。それを機に町内会活動に入り、当初は選手としての参加でしたが、その後はだんだんと世話役へシフトしていったと思います。それから後、ユネスコ活動を通じて公民館に青年学級があるということを知りまして青年学級へ入りまして。25歳前後だったかと記憶しております。その時は、「一人ぼっちよ、さようなら」というのが公民館青年学級の合言葉でした。日本全体が高度経済成長の余波を受けていた時代背景もありまして、松山市に職場を求めて郡部から若い人が転入されました。そういう方は行き場というのが少ないので、公民館の青年学級へ参加したらどうかと声を掛けて、たくさん来られたと思います。私は当時、新玉公民館で活動していましたが、地域の特性で萱町にはタンス街、コミセンの建設前は井関農機の本社工場がありまして、そこの従業員さんがたくさん参加されていたかなと思います。青年学級では、色々なことを経験させてもらいましたが、25歳前後で思ったことは、やはり色々な活動する上で、人を褒めるということを欠かしてはいかんということです。私が学級長の時に、副学級長を初めは褒めて「ようやってくれた」という激励もしたんですが、慣れっこになってきてそれを口にしなくなっ

た、その副学級長が影で「学級長は最近僕のことを褒めてくれんようになった。」というようなことがありますのでやはり褒めることも含めて何らかの評価というのは常に忘れては行かんなあというのが私の思いでございます。それから、世代間交流ですけれども、私もやがて70歳に手が届く。そうすると、次の方にどのように渡していったらよいのかというのも1つ考え方があります。公民館で実施しております囲碁クラブというのがありまして、年齢的には70代の方が多いように思いますが、10数人の方が週に2回活動されております。小学校の放課後子供教室、児童クラブとはまた別ですが、その中で囲碁を通じて子どもさん方に教えて交流しており学校と囲碁クラブの橋渡しをすることができて、今も交流が続いていると聞いております。このようなことで、今日の意見交換会みたいな機会をつくってくれることが大事だと、今後も考えていかなければならないと感じております。

【市長】 さまざまな活動をされてきた中で、「我々はどういうことができたらなあと思うので、市でこういうサポートをしてくれたらもっともっとまちづくりにみんなが関わっていけるようになるんやけど。」「こういうのをしてくれんかなあ、わしらこういうのをするけん。」というお気持ちがありますか。ポイントを絞って言ってもらったらと思うのですが。

【男性】 正直申しますと、まだやってくれたらというようなことは持ち合わせておりません。市民が主役のまちづくりということですので、まずは、住民自身が地域のことを知らないが始まらないのかなというのがあります。

【市長】 ありがとうございます。今の話でまさに参考になるのが、地域のことを知っていただくというのは実はものすごい、大事です。潮見だったら潮見のことを、案外知らないんですよね。潮見の宝を知らなくて、それを知ってもらうことによって、子どもだけじゃなくて大人も結構知らないんで、子どもも大人も潮見のことが好きなるっていうのは、確かにまちづくりで大事な活動であるといういいヒントをいただきました。

【男性】 まちづくり協議会会長をしております。よろしく申し上げます。私、まちづくり協議会の活動をやり始めて一番最初に気づいたのが、ここには色んな組織チーム団体があり、それぞれが一生懸命活動しておりますが、縦のつながりがない。例えば小学生のグループはあるが、中学、高校生はあまりやらない。その次にPTAのお父さんお母さん世代、その次は65歳以上のおじいさんおばあさん、その間にほとんどつながりがないんですよね。それぞれがやっている。これじゃあ人がつながっていかない。

そこで、お父さんお母さん世代とおじいちゃんおばあちゃん世代も一緒に地域活動ができるような何かが見つからないか。市に要望するんじゃないかと、市長も一緒に悩んでください。そんな感じがいたします。

【市長】 まちづくり協議会は、松山市では市民部が担当しているんですけど、市民部長からほかの地区でこういうことをやっていますので、こういうふうにしたら世代間交流が進んでいくのではないかと、色んな世代でまちづくりができるんじゃないかというのをほかの地区の例も併せて言ってもらっていいですか。

【市民部長】 市民部長の唐崎と申します。まちづくり協議会、準備会を含めまして現在41地区中20地区で約半分のところが立ちあがってきております。そのような中で、今言われたような世代間の問題はどの地区も同じように抱えている問題だと思います。それを解消する取り組みとして各地の協議会でこのようなことをしていますというのをご紹介させていただきます。協議会の中に大学生に入っているというのが数例ございます。まず清水地区では、学生活動局というのを設置しております、学生の方々がまち歩きを実施して、学生の視点で理想のまちになるような計画づくりを行っているところがございます。また、桑原地区では大学がございますので学生が参画して協議会の中で一緒に活動している例がございます。また、北条地区でも、聖カタリナ大学がございますので、学生がまちづくり協議会と一緒に活動をしている例がございます。大学生だけではなくて、最近は企業の参画がみられて生石地区・味酒地区でまちづくり協議会のメンバーの中に企業の方々も地域の一員ということで入って活動をされています。そんな例がありますので参考にさせていただけたらと思います。

【市長】 今のは市側の話ですが、何か思われるところありますか。意見交換・キャッチボールができたと思いますので。

【男性】 私は、何かのイベントを一緒にしたいわけじゃないんですよ。何かの組織の中にそれぞれ縦の線に人が入る。例えばまちづくり協議会の役員の中に若い人も入っているとか、逆にPTAの関係のところにお年寄りがサポート役としてついていくとか、そういった縦のもっと密接なつながりが欲しいなと思います。

【市長】 それをやりたい中で難しいところ、こういうことが難しいけんそれができてないんよってというのはどうですかね。これは地元の方々と市だけの話じゃなくて皆さんとその意識を共有できれば大きいと思うんですよ。

【男性】 市長にそれを言われるとつらいところがあります。まち協の努

力不足かもしれません。

【市長】 いやいや。それはどこのまち協さんも大変なことであって、これを皆さんが意思を共有できたら、「いや、それやったらわしちよっとこんなことできるぜ。」みたいなのが生まれてくると思うので、皆さんで共有できることが大事だと思うんですね。

【男性】 それを探していきたいと思います。

【男性】 潮見地区まちづくり協議会の事務局長をしております。よろしく申し上げます。経験がないのですが昭和30年40年代頃に各地域で青年団活動が非常に活発であったと。その青年団が地域のまちづくりであったりまちおこしであったり、地域のリーダーとしてかなり存在感があったような話を聞いております。現在、潮見地区のまちづくり協議会には総務部とか安全部とか環境部とか事業部がありますが、その中で若い世代の組織である体育部は、ほとんどスポーツ行事などのイベントを中心としたもので、青年部とは違うんですね。青年部という位置づけではないわけです。地域における青年部活動は、いろいろ振り返ってみますと青年会議所あるいは農協とか各商店街とかには青年部があるかと思いますが、地域に青年部はあまり聞いたことがないので、次からは比較的若い方が活動されている体育部を、青年部的な位置づけに考えていく必要があるんじゃないかと思うわけです。それを進めるため、地域で青年部活動的なことを探るのですが、松山市としてそれを支えてもらう一本柱の通った大きな柱といえますか、そういう拠り所があると各地域の地域における青年部活動があるんじゃないかと。例を調べてみますと、昔、青年団活動で活発にやった名残が唯一残っとんのが、東京の荒川区の青年団がホームページに載っていましたが、考えてみれば各地域に地域のコミュニティとしての青年部というのはあまり聞いたことがないんですね。その点ちょっと市長さんのお考えも聞いてみたいなど。

【市長】 すみません。荒川区の何ておっしゃいましたか。荒川区のどんな取り組みですか。パソコンで探してみても参考になるようだったらみんなで見てください。

【男性】 これは、早稲田大学の学生が卒業論文として書いているわけです。「地域コミュニティにおける青年活動の意義」というふうなタイトルですね。「東京都荒川区における青年活動の事例として」ということで。これはなぜ、青年団活動が活発になったかという時代背景から始まってさつき公民館長がちらっと言われたことに共通するんですけどね。参考になれば、我々も反省の1つとして発言しとるわけです。

【市長】 今の話を受けて即座にお答えできるものありますか。

【教育員会事務局次長】 教育委員会事務局の次長をしております家串と申します。どうぞよろしく申し上げます。青年部のことで、これまでの経緯と現状をお話しさせていただきながら、ご参考になればと思っております。かつて、昭和40年代50年代には青年部活動、またその中でも青年学級などの活動が非常に多くございました。この青年学級とは青年学級振興法に基づいたもので、その目的は勤労に従事し、また従事しようとする青年に対し、私生活に必要な職業、また家事に関する知識技能を習得させる。また、一般的教養を向上させるといった目的でつくられたものでございました。しかしながら、時代の変遷もございまして、高校への進学率の高まりとか他の学習機会の増加により、この青年学級はその役割を終えたということで平成11年にこの法律は廃止となりました。松山市でも活動がだんだん縮小してきたので、昭和60年には青少年センターに、松山ヤングネットワークという事業を設け、青年学級をはじめとしてスポーツサークルや文化活動団体、また奉仕活動団体、こうした各種団体をつなぐ役割を持った組織を設けました。いわゆる都市型青年団といわれておりましたけれども、こうしたものとしてさまざまな活動を展開してきたという経緯がございました。

【市長】 できるだけ話をやわらかくもっていこうと思います。青年団活動は、日本全体として難しくなってきたわけですよ。30・40・50歳ぐらいだと思ったらいいですかね。私が48なので、ちょっと微妙なところになってきましたが、やはり会社でも中心的な役割を担っていて、会社を中心になって、さすがに土曜・日曜・祝日は家でゆっくりしたい。会社から帰ってくるのも遅いから、地域活動にはなかなか出にくいと。退職したら、ふるさとにお返しをしようかということで、60代70代の方が、ふるさとの地域活動を頑張っていてくださっているところが多々あるのではないかなと思います。30代、20代も入れましょう、20代30代40代50代の方々が潮見においでるんだから、できたら、潮見の活動に参加してもらおうと非常にありがたい。やはり縦の世代がつながっていくとすごくいいんですけども、そこでやはり「そうは言うてもな、市長。わしらかて、ほんとは参加したいんやけど、なかなか参加できんのぜ。」というところがあると思うんですよ。例えば、それを言っていたら、「それやったら、こういうふうに改良しようか。」ということが出来るかと思えます。ほかのイベントも大事なんですよ。例えば、運動会をやってお世話役の方がつながる。地区の運動会をすることによって、日頃話をしたことのない人が運動会を機会に集まって話す。話すとながりがで

きる。防災の面でも助かるし、治安の面でも助かるし、ある意味、介護の面でも、おじいちゃんおばあちゃんをいつもみよるけど、「ちょっとお買い物行くけん、その間みよってくれる。」と言えるつながりがあるんだっただらお願いできるけど、つながりがなかったらお願いできん。つながりがあるほうがとてもいいわけですよ。他の地区でやっていること、運動会、文化祭、色んな地区でやっています。伊台では、親子ハイキングやバーベキューといったイベントをやっています。子どもが主体となる活動例ですね。大人も関わられます。久米には、埴輪をいっぱい置いた山があるので、久米の里山を生かした宿泊体験をやったりとか、坂本では、子どもが主体となる活動、坂本地区内を走る駅伝大会をやっていたりとか、中心地区の素鷲では、田植え前の水田での泥遊び、綱引きやったりですとかね。道後では、児童の図書を読み聞かせ、紙芝居を親がやる。また、おじいちゃんおばあちゃんの世代が子どもたちにしてあげたりもあります。番町は、町内の子ども神輿を集めてパレードをやったりとか、桑原では、農業体験ですね、田植えをして、稲刈りのときには、みんなで稲刈りして、それで餅つきをしたりとか。生石では、幼稚園児や小学生による相撲大会。松山は、全国でも珍しく小学校に土俵を設けていますので、その土俵を生かしましょうということ、各地で相撲大会をやっていたりします。また、余土では、地域を知っていただくことが大事ですが、案外皆さん子どもも大人も知らんからというので、カルタ「余土めぐり」というのをつくって、そのカルタ大会をしたりとか、また、味生では、野菜づくりを通じた住民の相互交流をしたりとか。興居島には、「船踊り」という伝統芸能がありますが、ちょうどNHKのテレビ「鶴瓶の家族に乾杯」という番組で、この前出ていましたが、船踊りで世代間交流したりとか、久枝は安城寺の川狩りをやっていますね。浅海はだいぶ人口が減っていますが、獅子舞の保存、子どもだんじりのかき比べとかあります。立岩は、立岩小学校のすぐ裏の貫之山にツツジをいっぱい整備したり、花いっぱい活動をやったり、正岡はほたるで環境整備をしたり、幼虫を放したり、観賞会をやったりとか、さまざまやっています。こういう状況をお知らせしましたが、皆さんから、若い世代の方が「こうしたいんやけど、なかなか難しゅうてな。」みたいな話があったら、言っていただいたらと思います。

【タウンミーティング課長】 タウンミーティング課長の橋川と申します。先ほどおっしゃった荒川区の事例ですが、名称は「荒川区青年団体連合会」という確かに荒川区の中に青年を取りまとめるような団体組織があります。しかし、まとまったものがございませんので、また資料を取りまとめて関係課でも勉強させていただいてから、後ほどご説明にお伺いさせてい

ただきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

【市長】 これは潮見さんも一緒だし、私らもそうだと思います。青年の方がもっとまちづくりに参加してもらったら色んないい点が出てくるので、同じ思いじゃないかなと思います。我々も荒川区のことを勉強させてもらったらと思います。

【男性】 潮見の体育協会の理事長をしています。今、市長さんからいろいろお話を聞いた中で、重複するところがあると思いますがけれども、この潮見地区でも私ども体育協会、8つぐらいのレクリエーション、体育祭を含めて事業させていただいています。

【市長】 8つぐらいのレクリエーションは、どんなことをされているんですか。

【男性】 レクリエーションバレーボール。ソフトボール。それと今の体育祭ですね。ペタンク。グランドゴルフ。卓球。なんぼ言いましたかね。

【市長】 よう言えるなと思て。今で6つです。レクリエーションバレーボール、ソフトボール、体育祭、ペタンク、グランドゴルフ、卓球。僕なんか、野球好きですから、ソフトボールに出たいですけどもね。

【男性】 7ブロックバレー。市民バレーボールがあります。これで8つですよ。一番の悩みは、やはり集まりが少ないところです。年々、参加者が減少しているという問題があります。これは、色んな工夫をすれば、参加者が増えてくることもあるかも知れません。例えば、体育祭であれば高齢者の種目を増やせば、参加者も少しは増えると思いますが、そうするとどうしても時間が長引いてくるので、なかなかです。今、この潮見地区で子どもたちがボールを使って遊べる場所って、ほとんどないんです。地区によっては、公園とかもありますけれども、公園でボール遊びはだめよとなっていますから、遊ぶところは、家か道路です。学校のグラウンド等々も使えるようにはなっていますけれども、スポーツ少年団関係が使用していますので、実際は時間的にグラウンドを使って遊ぶことは難しいので、そういう子どもたちにも、どんどん出てきてほしいんです。そこで、色んな地区でどういうことをしていけば、参加者がどんどん増えていくのかなどを聞きたいです。横のつながり、コミュニケーション、体育祭で、集まってくれる人は、ほとんどいつも一緒のメンバーです。もう少し何かの方法をもって、潮見全体が盛り上がるように、参加者が増えていけば、もっとコミュニケーションもとれるだろうし、いいんじゃないかなと思います。それと、もう1つは、こういうスポーツ事業にスポーツ少年団に入ってスポーツをしていて、松山市の大会などと日程が重なって出してもらえ

ないという問題です。父兄の方は、やはり子どものほうに行っちゃうんですよね。参加してほしいのでお呼びをするけれども、どうしても、子どもの試合があるので出られないと言われます。日程が重複するところがたくさんあると思いますので、松山市の方でも少し考えていただいて、工夫をしていただけたらいいんじゃないかなと思います。

【市長】 確かにありますね。子どもたちのスポーツ少年団でいうと、例えば軟式野球やサッカーがあつたり、そっちも大事なんだけど、地域行事も大事で、重なってしまつて両方は行けないので困つたなという例があります。なかなか個々の事例だから言いにくいかもしれませんが、大胆にスクラップアンドビルドってよく言いますけれども、何か建てるんだつたら、あるものはスクラップしよう。いい時間の使い方、人の集め方として、重なるものがあれば、ちょっとこれは縮小して、こっちで人に参加してもらいましょうかというのも考えなくてはいけないかなと思います。個々の事例が言いにくいかなと思いますので、あえて言うのは避けようと思いますが、もし皆さんで「これはだいたい参加者が少なくなつとるけん、やめたらどうぜ。」みたいなことがあつたら、遠慮なく言ってもらつたらと思います。それと、もう1つボール遊びのことが出ましたが、この間も寺井市議さんと、この城北の公園をよりいいものにしていきたいなと話していました。松山市としてはボール遊びのできる公園を増やしたいと考えていまして、毎年、大体1カ所から2カ所のペースですけれども、ボール遊びのできる公園を増やしています。これには2通りの意見があります。私も、清水小学校で城北の人間です。私は48歳ですけれども、子どもの頃は、空き地がいっぱいあつて、皆さんよく通られると思いますが、山越のN T Tのビルのところも大きい空き地があつて、あそこで草野球をしていました。自由に遊べるところがたくさんありました。田んぼや畑でも野球とかできましたけれども、今どんどん宅地化が進んでいて、じゃあ、公園でボール遊びをということになるんですけれども、やはり子どもたちはボール遊びをしたいのですが、一方で小さいお子さんをお持ちの保護者は、バットを振られると怖いとか、固いボールが飛んでくると怖いとか。また、市長へのわがまちメールという、直接市長にメールが届く制度をとっているんですけれども、ある中学生の女の子から届いたメールが、こういう内容です。「私は、公園のすぐそばに住んでいます。市長さん、何とかしてください。ボール遊びをしている男子が私の家の中に勝手に入ってくるんです。ボールが飛び込んで、私の家に当たるんです。勝手に入って来られるので、嫌なんです、困るんです。」というメールをいただいたことがあります。両方の意見があるんですよ。遊ばせてあげたいけれども、公園

のそばに住んでいる人の気持ちも考えないかん。というところで、松山市は平成18年度から、地域の皆さんでボール遊びのルールづくりや利用マナーの徹底などに取り組んでいただける公園を対象にボール遊びができる公園づくりをやっていきます。順番に言っていくと平成18年度には、平井町の平井公園。平成19年度には、旧北条市の河野別府の文化の森。平成20年度には中野町の中野公園。平成21年度には、久万ノ台の久万ノ台緑地。平成22年度には、堀江の堀江中央公園。平成23年度には、小坂5丁目の福音公園。平成24年度には、白水台4丁目の白水台北公園。平成25年度には、古川西2丁目の古川公園。平成26年度には、愛光町の愛光公園。平成27年度は久米窪田の北窪田公園。そして、石風呂のすみれの北公園というふうに増やしてきています。公園は各地にありますので、地元の方々に公園管理協力会をつくっていただいて、そこで管理してもらっているんです。潮見地区には、3カ所の公園があるんですが、具体的にボール遊びを希望する公園がありましたら、地域の方にもその旨お伝えして、ご意見をお聞きするなど可能性について検討していきたいと思っています。ですので、ここの公園でやりたいんよという意見をいただいたら、勝手に2者で話をしてくださいではなくて、私どもが間に立って、ボール遊びのできる公園を増やしていきたいと思っています。今日は、職員も勉強のために来ているんですけども、市役所の職員は色んな部署を経験していますので、かつてこういう部署にいて、こうやって人を増やしてきた経験がありますよ。地区に参加する人たちと工夫してこうやって増やしてきましたという事例を思い出すものがあれば、どなたでも結構ですから言ってもらったらと思います。

【職員】 堀江のまちづくり協議会の事務局長補佐と堀江小学校のPTAの会長をさせていただいています。実家が潮見なので、今日は参加させていただきました。先ほどのなかなか参加者がいらっしやらないというご意見ですが、私が、まちづくり協議会でいろいろ事業をするときには、やはり子どもさんをメインにしてということがよくあります。子どもさんができるだけ参加しやすい環境にして、保護者の方に一緒に出てきてもらう事業をするように心がけています。最近の例であれば、グランドゴルフがあったんですけども、そのときに地域の方から「PTAも含めて、地区からできる限り多くの方に参加してほしい。なかなか子どもさんたちが出てこないの、保護者間でも、できる限り出てきてほしい。」と相談を受けました。そこで、募集をするときに、保護者にも「地域で子どもたちの友達同士が出てきてほしい。」そして、「一緒に出ていきませんか。」という呼びかけをPTAでしたことがあります。そうすると、やはり子どもさ

んはお友達同士で行きたいので、保護者もそのときに一緒に出てくれて、そこで顔がつながる、お話もできるということがありました。そういうふうに、子どもさんを軸にするとか、何かを軸にした形でされたら比較的若い方も出てこられるのかなと思います。

【市長】 皆さんから、こういうところが難しいんやけれども、そうやろか。地域の皆さん、こういうのを知ってほしいんやけどみたいなのがあれば。どうぞ遠慮なく言っていただいたらと思います。

【男性】 谷町の公民館分館でお世話をしております。私は、松山が田舎でなく、南予が田舎で、たまたま松山の本社の会社に就職して、たまたま谷町に帰ってきて、家を建てて住んでいます。もう十何年になります。今、公民館の仕事をさせてもらってまして、そのきっかけが十何年前の家を建てたときのお神輿です。次の年に、地域の組長をしまして、その10何軒の組長はお神輿を担ぐという習わしがあったので、会社を休んでお神輿を担ぎました。それから、毎年お神輿を担いで公民館の仕事をさせてもらってまして、谷町だけではなくてどこもそうだと思うのですが、平日にお神輿を担ぐとなかなか人が集まりません。私ども、新しい家を建てた方を誘って、今年も数人新しい方に来てもらって、地道に新しい方を引き込む工夫をしても、どうしても仕事の関係で休めない方もいらっしゃいます。つい先日、道後のかき比べを日曜日にするよという意見を出されておりましたし、北条は第2日曜日にお神輿をやっています。ですから、市だけでなく当然神社庁も、あちこちの地区も必要なんでしょうけれども、ぜひ市で音頭をとっていただいて、日曜日に統一の地方祭をやっていただきたい。それがきっかけで新しい方、若い方がお神輿に参加できる機会が増えるのではないかという意見を持っていますので、ぜひその仲立ちをお願いしたいと思っています。

【市長】 これは、ご意見としてあります。

【地域経済課長】 地域経済課長の中島と申します。よろしくお願ひします。一部報道で道後の秋祭りの開催が日曜日にされるという報道はありましたけれども、確認をしてみたのですが、それを神社で決定するところまでは現在至っていないということで、松山市にも検討中という情報しか届いていません。そういう状況です。神社の例祭日や各種行事の内容はそれぞれの神社で、地域の方々と決定しているのが実情でございまして、政教分離という原則もございしますので、市は直接関与していないのが実情でもあります。秋祭りの日程についても、地域の実情に沿って神社ごとに決定されるということになります。

【市長】 ちょっと素っ気なく聞こえるかもしれませんが、できたら地域

でお決めいただくとありがたく思います。というのが一般的な例として聞いていただきたいのですが、今年はちょっと行けなかったのですが、私も毎年、祭りに行かせていただいてみんなが集っているのはいいことだなと、お神輿を見て獅子舞も継続されていて立派だなと思います。秋祭りは皆さんご存知のように宮入り、宮出し、お神輿に神様が乗っているんですね。ということは神社の祭礼としてやっていますので、神社さんのお祭りとしてこの日に昔からすることになっているというところもあるんですね。昔はそれでよかったけど、今はなかなか祭りじゃいっても会社が休めのじゃと。土日祝日にしてくれたらかき手も出やすいので、時代も変わってきたんやけん土日祝にやろうやというところもあるんですね。52万人の松山市として土日にしましょうやと市役所がやるのはちょっと難しいところがあって、できれば地域でお話をさせていただいて、地域のそれぞれの事情もありますので地域でお決めいただくのがよろしいのかなと思います。確かに中島課長が言いましたように政教分離というところもありますので、なかなか市が手を出しにくいところがありますので、まずは地域でお話をさせていただくのがよろしいのではないかなと、ちょっと素っ気なく聞こえるかもしれませんが、地域それぞれでお話をさせていただくのが第一かなと思います。

【男性】 お祭りの話が出たついでですけれども、吉藤地区に先ほど言いましたけれども小学校1年生から65歳のおじいちゃんまで、女の子も混じって、縦にずっと連なった組織があります。担当の人がいますので発表してもらっていいですか。

【男性】 よろしくお願ひします。先ほどおっしゃっていたんですけど、伝統文化保存会という組織があります。僕も保存会が復活した当初からではないのですが、途中から参加させていただくようになりまして、今、息子も一緒に獅子舞をやっているのですが、お祭りの獅子舞関係で縦のつながりがものすごくできました。

【男性】 同じ獅子舞の会に入っております。最近、子どもの獅子を始めました。子どもの獅子を始めるとお年寄りの人が見に来るんですね。お年寄りの敬老会でもするし、まちづくり協議会さんともつながりがきちんとできていますし、どんどんそういうふうにつながっていったらと思っています。獅子舞は結構子どもたちにも人気が、したいという子が小学校から来ているのですが、獅子舞と秋祭りのお神輿は大体同じくりですけど、獅子舞は人が来るのですがお神輿を担ぎにくる子どもたちは非常に少なくなってきました。

【市長】 子ども神輿を担ぐ子がですか。

【男性】 小学生も中学生も地方祭で休みのはずなのですが、どんどん人が減って今年は初めて中学生神輿が途中で動かなくなりました。それで中学校や小学校と協力もしながらやっていけないのかなと思うのですが、これも人集めですが何かいい案があれば教えていただいたらと思います。

【市長】 私は48歳になりますけれども、親父が県職員だったので清水小学校校区の県職員住宅に住んでいたんですよね。地区は四角さん八角さんの地区ですけれども、アパートの子は神輿をかいたらいかんと言われてまして、かけなかったことがあるんですよ。僕らの世代のときは四角さん八角さんと子ども神輿もありましたけれども、かきたくてたまらんかったんですよ。その県職員住宅のお父さんお母さんらがかわいそうだからといって、酒樽で樽神輿をつくってくれて住宅で担いだことがありました。我々のときは担ぎたくてたまらんかったので、友達に言って「お入りや」と子ども神輿を担がせてもらいましたが、今はそんな状況なんですね。何が違うんでしょうね。僕らのときは担ぎたくてたまらんかったんですけど、しんどいから嫌なんですかね。わかりました、現状を教えてくださいました。先ほど、お祭りの日程のことがありましたが、松山市はお祭りという事例を通じてコミュニティがつながっていくことを存じていますので、地域活動のサポートをしております。ちょっとご紹介をさせていただいたらと思うのですが、宝くじがありますよね。宝くじの収入を財源として実施している、太鼓や神輿などの備品が購入できる助成事業をやっています。これは結構なお金が出るんですよ。100万円から250万円までのお金が出ます。助成金のご要望をお考えの団体は市役所までご相談いただいたらと思うのですが、そういう宝くじを財源として助成制度もあります。潮見地区は獅子舞でさせていただきましたかね。また、市役所単独ではなくて銀行さんも応援してくれますよ。伊予銀行さんは「地域文化活動助成事業」というのがあります。愛媛銀行さんは「愛媛銀行ふるさと振興基金」というのがあります。また、三菱UFJ信託地域文化財団というのがあります。また、「地域文化の振興に資する活動団体に対する助成事業」ですとか、国立青少年教育振興機構の「子どもゆめ基金助成金」とか、明治安田クオリティオブライフ文化財団は「地域の伝統文化保存維持費用助成」とか、全国税理士共栄会文化財団は「地域文化の振興をめざして」とか、色んな助成制度がありますので、ちょっと助けてほしいんよというところがありましたら、市役所に遠慮なく相談をしていただけたらと思います。そういうところとつなぐこともできます。これは市内41地区なので、「うちのところも助けてや。うちのところも助けてや。」となって、審査になるこ

ともあるかもしれませんがけれども、言っていただいたらつないでいくこともできますので、遠慮なく言っていただいたらと思います。あと、何か職員からこういう例があれば言っていただいたらと思います。

【市民部長】 市民部でございます。先ほど、子どもの獅子舞に人が移って子ども神輿がということでございますけれども、解決策の案を提案できるわけではないのですが、やはり子どもたちは楽しくなければなかなかとっかかりが難しいでしょうし、続かないと思います。やっていることを褒めるというのが先ほどありましたけれども、そういう機会がなければ張合いもないでしょうから、獅子舞に人が移ったというのは神輿に魅力がなくなったのかなと思いますけれども、子どもにとって楽しい、あの子が行っているから私も行くというところもあるでしょうから、工夫になると思うんですけれども、子どもが楽しく参加できる方法をここでは示せないですけど、必要じゃないかなと思います。

【市長】 これは41地区のどこも悩んでいると思うんですよね。やはり一人で悩んでいるとなかなか解決策は出てこないと思いますけれども、今日はせっかくこうやって集っていただいたので、三人寄れば文殊の知恵という言葉がありますが、三人寄るだけでいい知恵が浮かんでくるものだと思います。潮見地区でいいアイデアが出てきたらほかの地区も参考にされて、そうやって松山のまちづくりはよくなっていくと思いますし、楽しさを生む知恵と工夫でやれることがあると思いますので、また考えていただけたらと思います。市長を5年させていただいていますけれども、私がこれいいなと思ったのが、伝統でこれまでずっと同じにするのではなくて新しい視点を加えると、「なるほど、そういうことやったんか。」と理解が深まることがあります。三津に巖島神社がありまして「虎舞」というのをやっております。虎舞は昔からやっているのですが、それまでは解説をしていなかったのですが、解説している公民館を見たんですよ。虎が出てきて、それを撃つわけですけども、「今、虎は何をしているところですよ。」「これは寝ているところですよ。」「今、虎が起き上がりました、いよいよ勢子（せこ）がやってきます。」というように解説をしているところがあつたんですよね。解説することによって、今まで虎舞は知っていたけど、こういう意味があつたんかと理解が深まって、虎舞の深い見方ができるようになったのを見ました。ですから、今まで伝統でずっと同じようにやってきたのじゃなくて、潮見さんが初めてのケースになってもいいと思いますので、新たな視点を加えて人が集うようになったら、すごくいいケースになると思います。

【男性】 第一部で若い人にいかに地域活動に参加してもらおうかという大きなテーマで議論をさせていただき、各団体の方がお見えですが、「あれもしてほしい。これもしてほしい。あれも欲しい。これも欲しい。」とないものねだりはいっぱいあるわけです。それはそれでできるものとできないものがあると思いますが、各団体の方がどんな思いを持っているのかと、どんなことを欲しがっているのかというのを聞いていただくだけでも参考になるのではないかと思いますので、今度はちょっとテーマを小さく下げて、各団体の人にそういったことを話していただきたいと思っておりますので、鴨川中PTAの方、皮切りにどうですか。

【市長】 どうぞ身近なことからおっしゃってください。2期目のスローガンで「一人でも多くの人を笑顔に 幸せ実感都市 まつやま」と言っているんですけど、日頃から皆さんが困ったなと思っていることをほったらかしにしていたら幸せなんて感じることはできないですよ。行政と一緒にやったまちづくりなんてできないですよ。やはり日頃の小さなことから解決をしていくというのが大事なことだと思いますので、話を聞かせてもらったらと思います。

【男性】 鴨川中学校のPTA会長をしております。お祭りですが、先ほどありました助成金、鴨川振興会で今年3年目のお願いをしておりますので、ぜひお願いをしたいと思っております。神輿のかき手のことについても空洞化がありまして、うちはとりあえず小中学生は出ますけれども、高校生が学校が休みではないので出にくい状況があって、それから大人になるまで疎遠になる状況が続いています。できましたら市長の顔でボランティア休暇を高校生に取りなさいよというぐらいの働きかけをしていただくと、ありがたいのかな感じております。あとPTAに関わっていますと、先ほどから子どもを巻き込んだらというんですけど、その巻き込まれた親が入りすぎると、疎遠になってきたりする状況があるので、お手柔らかにしてほしいなという感じですかね。足を入れ過ぎると私のように十何年も関わらなくてはいけない状況になりますので、考えてもらったらと思います。

【市長】 あんばいが難しいですよ。松山市は「いい、加減。まつやま」というフレーズを市民の皆さんとつくらせていただいた。松山城も道後温泉も瀬戸内海も色んな魅力がありますよ、よい加減ですよという「いい、加減。まつやま」というフレーズを皆さんと一緒につくったんですけど、どうぞ皆さんの日頃のことを教えてもらったらと思います。

【男性】 吉藤3丁目に住んでいます。私は団体には所属していないので、ただの会社員でございます。私は市長よりも1つ下の47でございますが、

私ぐらいの年齢になりますと両親が高齢になってまいります。今、日本は超高齢化社会になり、前回のタウンミーティングの資料も拝見しましたが、見守りネットワークとかそういったことについては大分組織化されていると感じております。ただ高齢化によって自動車の免許を自主返納されたりとか、あるいは体調の変調等で車の運転ができなくなる方が結構いらっしゃいまして、買い物に困難という方が増えている実情があると実感しております。今、松山市の中でも民間企業さんで配食サービスとか食材の宅配であったり、いわゆるネットスーパーとか生協さんとかの宅配みたいなものとか、いろいろ民間でサービスがあるんですけども、そういったサービスがまだまだ周知されていないとか、それでお困りの方が結構いらっしゃるようですけれども、松山市として色んな団体とか民間企業さんとかありますけれども、そういうところと連携して周知したり、買い物が困難な方のサポートに協力したりすることをされてはいかかなということをご提案したいと思っております。

【市長】 大きく2点あると思っております。買い物難民という言葉もありますけれども、買い物のこと、配食サービスのこと、高齢になってくるとちょっと食事をつくるのも大変だなというところもありますけれども、福祉の担当でお答えができますかね。お願いします。

【保健福祉政策課長】 保健福祉政策課の野本と申します。今ご提案いただきましたように、高齢化が進んで免許を返納された高齢者だけになってしまう。公共交通機関もあまりないとなると日頃のお買い物に困られると思います。例えばセブンスターさんが車に積んで回っておられるということをご存じております。北条ですとハトマートさんがマイクロバスを各地域に出して、お買い物バスで支援をしている事例もございます。その辺りも市民の皆さまに広げていくという努力が我々も必要かなと。民間の方にもそういうサービスを取り組んでいただけるような取り組みも必要じゃないかなと感じております。今直ちにどうにかするというのは無理かも知れませんが、取り組んでいきたいと思っております。それから配食サービスですが、松山市も独居の高齢者の方に対して配食サービスを事業者へ委託して取り組んでおります。その辺りは各地区の民生児童委員さんにお世話をしていただいておりますので、そちらからもこういう事業がありますよとお知らせしていけたらと思っております。

【市長】 どこの自治体もそうだと思うのですが、市民の皆さんによかれと思ってやっている事業なんですけど、案外知られていないところがあるんですよ。今、市役所で広報と広聴に力を入れています。私たちのやっている取り組みをもっと知ってもらいましょうという広報と、皆さん

の声に耳を傾けましょうという広聴です。まだまだ知られていないところがあると思いますので、配食サービスも市から委託させていただいて進めています。もっと知っていただけるように工夫をしていきたいと思えます。今、セブンスターさんの買い物の車が回るようになったりとか、これは最近始まったのですがハトマートさんがマイクロバスを出して買い物に来てもらうという民間のありがたい動きがあります。今、松山市は愛媛県とぶつかってもしようがないので、連携をして一緒に事業をしています。冒頭に申し上げたように「みんなでまちづくりをしましょう。」と、民間の方が色んな部門で協力をしてきています。行政だけ市役所だけではできないことに限りがありますので、民間の企業さんと一緒に、また地域の皆さんと一緒にさまざまなことに取り組んでいけたらよいと思えますのでよろしくお願ひします。今回、正直30分で今日のタウンミーティングが終わることもありえるかなと思っていました。88回目のタウンミーティングと申し上げたのですが、初めてのケースにチャレンジをさせていただきました。これはまちづくり協議会さんとの話の中で、どうやったらみんながまちづくりに参加できるかという、すごく抽象的なテーマでやらせていただいたのですが、おかげさまで1時間を越えてまちづくりに参加していただくためにはというのができました。全国でもこういう話し合いができるのは珍しいのじゃないかなと思えます。チャレンジをさせていただいたのですけれども、皆さんには活発によく意見を出してもらったなと思えます。どうぞ潮見ならではの困りの点がありましたらおっしゃっていただいたらと思えます。

【男性】 地域連絡会の会長をしております。市長さんは防災士の資格を取られたということで、その防災の件ですが、この前にテレビを見ていますと東京都が防災本というのを出版しております。内容的には家庭で地震が起きたときにはこういう防御をするとか、家庭で話すことができるようなイラスト付きの本を出版しております。そこで潮見の自主防災連合会の会長さんに、その本を松山市は取り寄せているのか調べてもらえないでしょうかと言ったら、あれは松山市の防災マップをまねしたのだと言って一喝されたのですが、ご存知でしょうか。

【市長】 存じ上げております。

【男性】 ちょっと1回見てみたいんです。やはり全国的に非常に問い合わせが殺到しているという状況ですので、松山市のを真似したんだと言われるとあれなんです、ちょっと調べてもらえないでしょうかね。

【市長】 今、言っていたように防災士の資格を取らせていただき

ました。それは、防災士の資格を取ることによって知識と意識を高めて松山市の防災に生かしていこうとでやらせていただいたんですが、先ほど言われたように、東京都がつくった防災マニュアルのは黄色い表紙で、松山市の防災の本はこれなんですけれども、東京都の防災マニュアルがこれくらいの大きさなんです。持ち歩きしやすいサイズになっているんですが、それは松山の目指すところと東京の目指すところは防災では一緒なんです、また違ったかたちでやっていますのでサイズの違いもあるのですが、東京都の防災の本は東京らしくテロにあったときにはどうしますかということまで書かれているんですね。首都ならではですけど。漫画・イラストをふんだんに入れてかなり読みやすいものになっています。松山市も常に改善改善で東京都のつくられた防災マニュアルが大変人気になっている、大変話題を集めているということで、しっかりと研究して次の防災マップに生かしていきたいと思います。ちょっと皆さん申し訳ないんですが、あんまり知られると嫌かもしれませんので、目をつぶっていただいて手を挙げていただきたいのですが、防災マニュアル、こんな本あったなと知っているよという方は、目をつぶって手を挙げていただけますか。ありがとうございます。もう一個だけ質問させてください。目をつぶって、防災マニュアルの中もしっかり見たよという方は手を挙げていただけますか。ありがとうございます。目を開けてください。実はですね、手前味噌になりますが、かなり頑張っている本なんです、防災マップ。愛媛大学防災情報研究センターというところがありまして、愛媛大学さん防災の面でかなり頑張っているらしいです。矢田部龍一先生という権威の方がいらっしゃるんですが、この矢田部先生ともいろいろと話をさせていただいてつくっている防災マップです。東日本大震災の後に改訂版を出して全戸配付ですので皆さんのお家に必ずいつています。これの中を見ていただいたら、潮見地区の避難場所がここになっていますよとか、防災に関することがたっぷり載っています。地図が載っているのと、例えば皆さんがトイレにいるときに震度7の地震にあったらどういうことをしたらいいかというのも書いています。皆さんがお風呂に入っているときに震度7の地震にあったら何をしたらいいかも書いています。色もかなり気をつけて付けています。浸水する地域を色分けして出しているのですが、蛍光色などあまり派手な色を使うと、目の不自由な方からすると逆に見にくくなります。そのように色まで配慮してつくっている防災マップです。是非とも見ていただいたらと思います。役立つ事柄がいっぱい書いてありますので、皆さんお帰りになった後に見ていただいたらと思いますが、ちょっと笑い話を一つ。防災マップ改訂版を届けさせていただき、皆さん見て

もらっているかなと思ったら、ある市民の方から「市長、新しい改訂版配られたけど、早速ゴミの日に出とったで。」と言われてまして、それはつらいなと思ったんですが、安心して下さい。改訂版の前のやつでした。ですので、皆さんのご家庭に必ず配付していますので、役立つ事柄がいっぱい載っていますので見ていただいたらと思います。よろしく願いいたします。

【男性】 自主防災連合です。この間まで消防団に35年おりました。東京都に似ていると言ったのは、私が言いました。松山のほうが本当に詳しく出ていると思います。避難場所の件で言いますけど、ここ、実は時間30ミリ以上雨が降りますと浸かります。駐車場が全部水に浸かります。避難場所は潮見小学校、鴨川中学校の全部川の傍です。大水の折、私が消防団の折から心配していましたが、もうちょっと浸からない場所にできたらなと思います。平成13年6月19日と20日、高野町で人が亡くなった折に12時間で200ミリ近い雨が降っております。時間30ミリの降雨が続きますとこの川は溢れます。何で覚えているかといいますと、平成13年に潮見に消防自動車の新しいのをいただきました。その折の最初の仕事が駐車場の泥のけでした。駐車場の中に魚が泳いでいました。だからもうちょっと安全なところがないかなと思います。

【市長】 わかりました。避難場所のことについては消防または危機管理でお願いします。

【消防局次長】 消防局の中矢でございます。ご意見ありがとうございます。防災のプロからそういうご指摘をされると非常につらい部分があるんですけども、避難場所につきましては、今、自主防災組織の会長を中心に地区防災計画を作成していただいていると思います。その地区ごとに潮見地区にも色んな危ない箇所があると思います。これまで潮見地区は積極的に自主防災組織の中でまち歩き等をやっていただいて、その中で危険な箇所等も把握していただいているとお聞きしておりますので、避難場所につきましても地区防災計画を作成する中で、会長さんの目から見て、色んな危険箇所やここが安全だという場所がありましたら、私どもにそれをご指摘いただければ危機管理課と一緒に検討させていただきますので、今後ともよろしく願いいたします。

【市長】 ちょっとわかりやすく話をさせていただくと、このまちづくりもそうなんですが、市役所が一番地域の魅力や課題をわかっているのではなくて、各地区に住んでいる人が各地区の魅力や課題を知っているんですね。先ほどおっしゃったように潮見では大きい雨が降ったらどういう状態

になるかというのを各地区の方が知っている。それを市役所が一方的に押し付けて市役所目線でやってしまうと、一番よくないものが出てしまうので、各地区で地区防災計画をつくっていただいております。しっかりと反映していきたいと思っておりますので、これからもよろしくお願いします。

【男性】 私は、あちこち住んだことがありますして、福岡、北九州、広島、京都、新潟、練馬、市川、何カ所か住んでいますけれども、その中で一番道がよかったのが新潟市でした。田中角栄さんの地元なので、すごい道が通っています。田んぼの真ん中を片側広い1車線のまっすぐなところで、上に農道2号線と書いてありました。そんなところに住んでいましたけど、松山は非常に住みやすい都市だと思いますが、まだまだ道の整備がほかの県庁所在地と比べると少し弱いかなど。田舎にたびたび帰るんですけど、松山に帰ってくる時に一番渋滞するのが済美のところの伊予鉄さんの56号線との交差点の踏み切りです。それから堀江に自転車で通勤するんですが、内宮中学校のちょうど前の道は、中学校の生徒さんが歩道を通るので自転車で車道を走ります。あそこの路側帯はこれくらい（肩幅より狭い広さを手で示しながら）しかないんです。道幅も狭いので、あそこを自転車で通ると非常に怖いです。もう少し道を整備していただきたいところがあちこちあります。もちろん予算措置やら、県とか伊予鉄さんにと、簡単にご返事ができないことわかっていますが、要望とだけお聞きいただいたらありがたいなと思います。

【市長】 ありがとうございます。お気づかいもいただきましてありがとうございます。終わりの時間が近づいてきましたが、遠慮なく道のことを言っていただいたらと思います。皆さんの意見をもとにして改良していくことが大事だと思います。皆さん国道196号とか33号とか11号ならおわかりになると思いますが、437号とか数字が大きい国道もありますし、どこが市道でどこが県道とかわからないと思いますので、市に遠慮なく言っていただいたらと思います。我々でつなぎます。県とか国にもつなぎますし、また一番いいのが双方からつなぐことです。我々も言うけど、皆さんから直接伝えてもらうのが一番わかりやすいことだと思いますが、国・県のほうが物事をえらい大げさに構えてしまって、「いやいやそんな難しいこと言いよんじゃないよ、こういうことをしてほしいんよ。」ということもありますので、我々に言っていただいてももちろんかまいませんが、皆さんからも直接伝えて、双方でやるのが一番進みやすいかなと思います。これまで88回のタウンミーティングで、県道のことも言っていたので、県に働きかけて、今、県もしっかりと連動して動いてくれていま

すので、いろいろ改良していきたいと思います。最後に私から本当に今日の潮見のタウンミーティングは素晴らしかったと思います。私、本当は手を挙げたかったけど言えなかった、という方もいらっしゃるかもしれませんが、どうやったら皆さんがまちづくりに参加できるのだろうという、ものすごく抽象的なテーマでまちづくり協議会さんと話をさせていただいてやらせていただいたんですけれども、本当に次々と意見が出て、意見交換ができたのは素晴らしかったと思います。ここまでできるところはちょっとないんじゃないかなと思います。本当にありがとうございます。防災の話が出ましたけれども、私からお願いがあります。防災士の資格を取らせていただきましたが、皆さん家具固定していますか。引っ越しのときのことを思い出していただいたらと思いますが、例えば、ご主人と奥さんで引っ越しするときにはタンスを2人で持てますか。きっと服を詰めとったら重くて重くて持てないと思いますが、服を全部のけたら2人で持てるかもしれません。日頃はいっぱい物が詰まっているのがタンスですが、家具固定してなくて例えば震度7とか震度6の地震が起こったら倒れてきますよ。それだけ重いものが直接当たったら痛いどころの騒ぎではありません。当たり所が悪かったら死にます。当たらなくても、倒れてしもたら逃げ道がなくなります。ですので、家具固定はしていただいたらと思います。この防災マップにも書いているんですけれども、およそ8割の方が何らかの災害に遭遇するだろうと思ってるんですけれども、家具固定している人は2割なんです。今はだいぶ増えてきましたけれども、この8割2割の差をどう埋めるかが松山市の防災担当としてやらなければいけないことなんですけれども、やはり皆さんにさせていただくことが大事。そして、AEDです。皆さんAEDの講習を受けたことありますか。皆さん自分の大事な家族、大事な人がすぐそばにいると思いますけれども、バタッと倒れて心室細動、心臓が痙攣することもあります。リースの方法もあるので、色んな場所にAEDを増やしているんですけれども、AED講習受けたらガイドランスに従ってやっていけばいいだけなんで、絶対1回講習は1回受けてもらえたら安心して使えます。でも、AEDの使い方を知らなかった助けることができなかつたら一生苦しい思いをされると思います。松山市色んなところでAEDの講習もやっていますので、また色んなものでこういう防災マニュアルなんかにも載っていますけれども、AEDの講習もぜひ受けていただいたらと思います。もし、大事な人が倒れてしもて、AEDが近くにあったんやけど、使えんかったとなつたら、ずつつらい思いをされると思いますので、ぜひともそういう人が増えることが松山市の防災が高まっていくことになりますので、よろしくお願

たします。今日は本当にありがとうございました。今日発言できなかった方、松山市は皆さまの色々な声をいただく制度をとっておりますので、遠慮なく言っていただけたらと思います。本当にありがとうございました。

— 了 —